

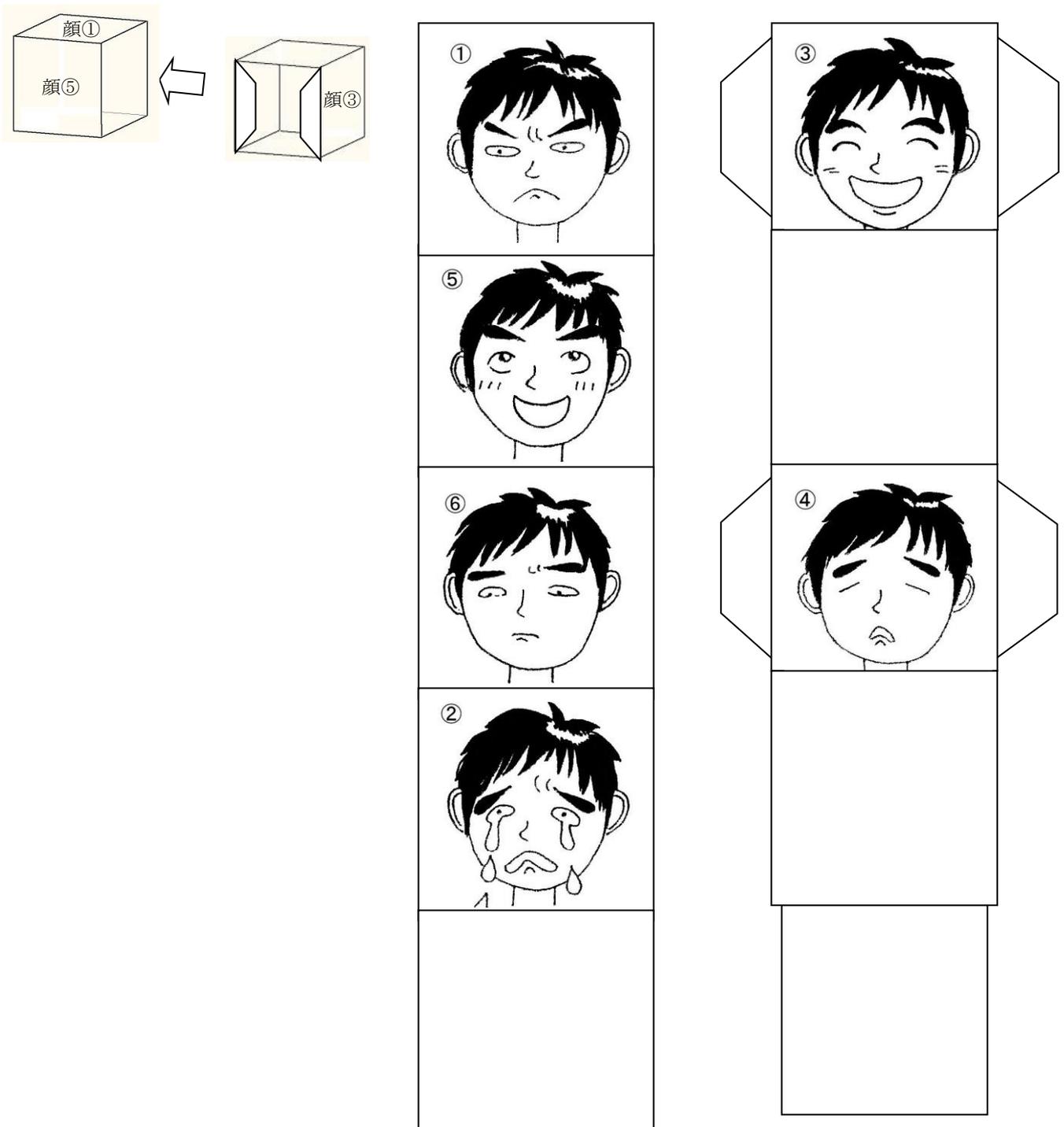
# 社会教育編

社会教育編：a

テーマ 「いじめをしない子どもを育てる『2つの自信』」  
タイトル「子どもの気持ちに向き合う上で大切にしたいこと」

【学習資料】きもちサイコロ  
＜つくりかた＞

1. 白い面をのりしろにして四角の輪を2つつくる。
2. 顔③のある四角の輪の白い面をのりしろにして、顔①のある四角の輪の内側に入れ、のりづけする。



【学習のポイント】

○子どもの気持ちへの向き合い方を考えることをとおして、子どもの自信を育てる上での家庭ならではの役割について理解を深める。

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	3  5	1 本研修会のねらいや進め方の説明をする。 ・話し合いのルール確認  2 アイスブレイクをする。	■「まじめなおしゃべり」という感覚で、肩の力を抜いて参加してください（全体の前で意見発表する場面はありません）。	◆「参加・尊重・守秘」を板書しておく。  ◆ファシリテーターも自己紹介する。
展開1	2	3 学習の見通しを持つ。	■自分に自信のある子どもははじめをしにくいだろうという仮説に立ち、自分に自信のある子どもの育成に向け、子どもの気持ちに向き合う際に大切にすべきポイントについて考えます。	
展開2	6	4 子どもの気持ちにかかわる体験を交流する。  5 みんなで考えたいエピソードをつくり、問を立てる。  6 みつばちワクワクカフェの進め方を確認する。	■きもちさいころをふり、出た面の気持ちに、実際に子どもがなったときのエピソードを紹介し合しましょう。 ■出されたエピソードを参考にしながら、①みんなで考えたい、子どもの気持ちにかかわるエピソードをつくり、②それにかかわる問を立てましょう。 ◆ファシリテーターが以下を説明する。	◆エピソードと問いの例を配布し、先行事例を掲示する。 ◆A3用紙にエピソードを書き込み模造紙の中央に貼る。
		7 みつばちワクワクカフェ第1セット 8 みつばちワクワクカフェ第2セット（9分+1分） 9 みつばちワクワクカフェ第3セット（9分+1分）	■みつばち役が持ってきたエピソードと問について話し合しましょう（9分）。 ■グループに戻って報告しましょう（1分）。	
展開3	8	10 ギャラリーウォークをする。	■他のグループのワークシートを見てまわり、なるほどと思う意見に「いいねシール」を貼りましょう。	◆「いいねシール」（ドットシール、付箋等）を配布する。
まとめ	7  5	11 振り返りシートに記入した後、グループで共有する。  12 ファシリテーターがまとめる。	■今日の学習を通して子どもの気持ちに向き合う上で大切にしたいと思ったことを振り返りましょう。	◆グループ内で共有することを予告した上で書いてもらう。 ◆ファシリテーターの体験談を盛り込むと効果

	<p>◆いじめをしない子どもを育てるには、在ること (Being) の自信と成すこと (Doing) の自信を育むことが重要だが、このうち在ること (Being) の自信を育むことに家庭ならではの役割がある 等</p>	<p>的。 ◆資料「2つの自信」を配布する。</p>
--	---	--------------------------------

<エピソードと問の例>

**【きもち②】**  
 雨がしとつく夕方。今日は米子でプロ野球のある日です。お父さんと観戦に行く約束をしているイチロー（当時小4）はお父さんの帰りを今か今かと待っています。

父：ただいまー  
 イチロー：お帰りなさいー！ お父さん 早く行こうよ！ 早くう！  
 父：はいはい ちょっと待っててね しかし空模様が心配だなあ…

イチローとお父さんは駅まで歩いて行きました。駅の改札で、お父さんは駅員さんにプロ野球の試合があるかどうか聞きました。駅員さんは試合が中止になったことをお父さんに伝えました。  
 駅からの帰り道、ガマンしきれなくなったイチローは、大声で泣き始めました。

問「お父さんはどうすればよいでしょう」

【参考資料】 2つの自信

<p>変化する できるようになる めざす</p> <p>成すこと (Doing) の自信 学校で学ぶことから</p> <p>在ること (Being) の自信 家庭の暮らしから</p> <p>変化しない そのままがいい すごく</p>	<p><b>Being (在ること)</b></p>	<p><b>Doing (成すこと)</b></p>
	<p>存在することそのものの自信</p>	<p>新しい知識・技能を身につける ことから来る自信</p>
	<p>変らないことに価値を置く “そのままがいいよ”</p>	<p>変化することに価値を置く “がんばってできるようになろう”</p>
	<p>すごく＝生活者として育つ 円環的に廻る時間の中で</p>	<p>めざす＝学習者として育つ 直線的に伸びる時間の中で</p>
	<p>エネルギーの蓄積</p>	<p>エネルギーの放出</p>

肥後功一教授（島根大学教職大学院）講義資料より

社会教育編：b

テーマ「人間関係」

タイトル「かけがえのないあなたたちへ（その2）」

【学習資料】

「何とかしなきゃ」

ル：ある日、泥だらけのくつやズボン、いつもより遅く、うつむいて帰宅した小学3年生の息子Bの様子を見て、動悸がうって思わずたずねました。

母：「遅かったなあ、どうしたんそのくつやズボンの泥は？」

B：「なんでもないわ、田んぼで遊んどってこけただけ」

母：「なんでもないことないが、今日だけでなく、近ごろよう服よごして帰って来るが」

B：「ほっといて、おかあさんには関係ないわ」

母：「関係ないことないわ、いじわるされとるんじゃないか？何だか心配だが」



ル：泥だらけのくつを玄関に脱ぎちらし、Bは二階の自室に駆け上がって行きました。夜遅く帰宅した夫に、夕食を準備しながら相談しました。

母：「おとうさん、少し前から気になってたんだけど、どうやらBがいじめられとるようだよ。近ごろ、帰りが遅いし、くつやズボンが汚れとることが多いし、おかしいと思ってたんだけど……。ほんとに心配だよ」

父：「子どもの服が汚れとるぐらいで心配すんな。子どもの勲章みたいなもんだ。ふざけ合ってるだけじゃないんか？」

母：「だって元気もないし、目をそらして話もせんし、絶対いじめられとるんだわ」

父：「Bはおとなしい子だけ、ようケンカもせんしなあ。おかあさんは誰にいじめられとるんか知っとるんか？Bに話を聞いたんか？」

母：「聞いたけど、Bは『おかあさんには関係ないわ』って話してくれんに」



ル：翌日の土曜日、夫は早朝から出かけてしまいました。遅く起きてきたBに昨日のことを聞いてみました。

母：「昨日の夜、おとうさんにも話をしたけど、心配しとったで、何かあったんだったら話してみないな、おかあさんも心配で寝られなかったで」

B：「おかあさんには関係ないって言ったが……。誰かに言ったらまた何かされるわ」

母：「ほら、やっぱり何かされとるんじゃないの。可愛い我が子のことを心配せん親がどこにおる。ちゃんと話さないな」

B：「……おかあさん黙っというてな。昨日はな、学校から帰ってくる時、C君とD君とE君に背中をドンドンって押されて、田んぼに落とされたんだ。他の時も、キックボクシングの試合とかいってパンチやキックされたこともあるけど、3対1だし、かなわんが」

母：「他にだれも見とらんかったんか？」

B：「AちゃんとFちゃんが見とって、『何してるの!』って言ってくれたけど、C君が『はあ？遊んどるだけだしー』と言ってた。僕は何にも言わなかったけど」

母：「先生は知ってるの？」

B：「わからん。だって、いつも先生がいない時だし」

母：「先生に言ってみたら」

B：「先生に言ったら、告げ口したとまた何かされるから、言うのいやだ」



ル：その夜、Bが告白したことを夫に話した後、夫とBの部屋へ行き、寝顔を見ながら二人でつぶやきました。

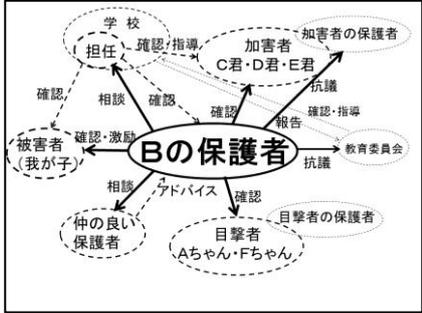
母&父：「何とかしなきゃ」



【学習のポイント】

○いじめの初期段階への気づきや対応を保護者として主体的に考え、いじめ抑止への行動につなげようとする意欲を高める。

○地域で話し合っ問題解決する「いじめ抑止のネットワーク」を構築していくには、どのような人間関係・信頼関係づくりをしていけばよいのか考えることができる。

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	5 10	1 本研修会のねらいや進め方の説明を聞く。 2 アイスブレイクをする。	■本研修会のねらいや進め方について説明します。 ■アイスブレイクをします。	◆「参加・尊重・守秘」をおさえる。
展開1	10 20	3 資料「何とかしなきゃ」を使って話し合いをする。 (1) 資料「何とかしなきゃ」を読み、保護者Bのとるべき行動を考え、付箋に書く。(個人) (2) 付箋をもとにグループで話し合い、「いじめ抑止ネットワーク」図を作成する。(グループ) 《「いじめ抑止ネットワーク」図例》 	■Bの保護者はどんな行動をとるべきでしょうか？各自で考えましょう。 ■模造紙の中心に「Bの保護者」を書き、周りに各自の行動を書いた付箋を貼ってください。 ■行動を同じ項目ごとにまとめてください。 ■最初の行動の目的、対応してほしいことなどとともに、それぞれのつながり、広がりについて話し合ってください。	◆資料は事前に配布しておく。 ◆役割を決めて朗読劇をすることもできる。 ◆準備物 ・模造紙1枚 ・付箋適宜 ・マジック1本
展開2	15	4 情報を収集する。(「いじめ抑止ネットワーク」図を全員が見てまわる) ・一人二カ所程度 ・一カ所3分程度	■グループの半数の人が、別々に他のグループに行き、残っている人とグループでの状況を話し合しましょう。 ■はじめのグループに戻り、残っていた人と交代しましょう。	
展開3	10	5 再度、グループで「いじめ抑止ネットワーク」図について話し合う。 ・第一に取るべき行動について ・どのようなネットワークを構築する必要があるのか	■他のグループを参考に、第一に取るべきと思う行動について、またどのような「いじめ抑止ネットワーク」であれば、いじめの抑止につながるのか話し合ってください。	◆各グループの「いじめ抑止ネットワーク」図を完成させる。
まとめ	10	6 話し合ったことについて発表する。  7 ファシリテーターがまとめる。	■話し合ったことを発表してください。	◆グループを意図的に指名してもよい。 ◆「家庭での『いじめサイン』チェックシート」配布。

【参考資料】

家庭での「いじめサイン」チェックシート

NO	項 目	チェック
1	朝、布団からなかなか出ようとしなない。	
2	朝、腹痛や頭痛など身体の具合が悪いと訴える。	
3	トイレからなかなか出てこない。	
4	いつもと違って朝食を食べようとしなない。	
5	学校へ行きたがらなない。	
6	親の学校への出入りを嫌う。	
7	ひとりで登校したり、遠回りして帰ってきたりするようになる。	
8	イライラしたり、おどおどしたりして落ち着きがなくなる。	
9	人前で着替えをするのを嫌がる。	
10	勉強に集中できなくなり、成績が下がる。	
11	部屋に閉じこもることが多くなる。	
12	深い大きなため息をつくことが多い。	
13	親と視線を合わせようとしなない。	
14	言葉遣いが乱暴になる。	
15	学校の様子を聞いても言いたがらなない。	
16	友だちのことを聞かれると怒りっぽくなる。	
17	すぐに謝るようになる。	
18	無理に明るく振舞おうとする。	
19	友だちや学級の不平・不満を口にするようになる。	
20	外に出たがらなない。	
21	電話に敏感になる。	
22	友だちからの電話にていねいな口調で応答する。	
23	衣服が汚れて帰ることが多くなる。	
24	擦り傷などよくケガをして帰るようになる。	
25	寝付きが悪かったり、眠れなかったりする日が続く。	
26	学用品、所持品や教科書を紛失したり、落書きされたり、壊されたりする。	
27	お金の使い方が荒くなる。	
28	「転校したい」とか「学校をやめたい」と言う。	
29	家庭から物品やお金を持ち出す。	
30	親しい友だちが家に来なくなり、見かけない子がよく訪ねてくるようになる。	

テーマ「豊かにつながる人間関係づくり」

タイトル「子どもがインターネット端末（パソコン・スマートフォン等）と上手に関わるために」

【学習資料】インターネットの利用に関する児童生徒アンケート



### インターネットの利用に関するアンケート

(対象：小学校3年生・5年生、中学校1年生)

「インターネット端末」(インターネットに接続できる通信機器)

パソコン、スマートフォン、タブレット、ゲーム機、音楽プレイヤー、据置き型ゲーム機、テレビ

1 あなたが使っているインターネット端末はどれですか。(あてはまるものすべて)

- ①パソコン ②スマートフォン ③タブレット ④ゲーム機 ⑤音楽プレイヤー  
⑥据置き型ゲーム機 ⑦テレビ



2 あなたはインターネット端末をどのくらい利用していますか。(あてはまるもの1つ)

- ①毎日(1日あたり約 時間) ②週4～6日(1日あたり約 時間)  
③週2～3日(1日あたり約 時間) ④週1日以内(1日あたり約 時間)  
⑤ほとんど利用しない



3 あなたはインターネット端末をどんなことに使っていますか。(あてはまるものすべて)

- ①家族との連絡 ②友だちとの連絡 ③ゲームをする ④写真・動画を見る ⑤写真・動画をとる  
⑥写真・動画を投稿する ⑦音楽をきく ⑧分からないこと、知りたいことを調べる  
⑨買い物をする ⑩その他( )

4 あなたはインターネット端末を使う場合、家族とルールを決めていますか。(あてはまるもの1つ)

- ①ルールを決め、しっかり守っている ②ルールを決めているが、あまり守っていない  
③ルールは決めていない



5 あなたがインターネット端末を使っていて困ったこと、いやなことはありますか。(あてはまるものすべて)

- ①友だちとのトラブル ②迷惑メール ③悪口を書かれた ④勝手に写真をとられた  
⑤知らない人から連絡がきた ⑥夜遅くまで使い、寝不足になった ⑦手放せない  
⑧その他( ) ⑨困ったことはない



6 もし、あなたがインターネット端末を使っていて困ったことやいやなことがあったとき、どうすると思いますか。(あてはまるものすべて)

- ①家族に相談 ②学校に相談 ③友だちに相談 ④警察に相談 ⑤その他の人( )に相談  
⑥誰にも相談しない ⑦その他( ) ⑧わからない

【学習のポイント】

- 新しいコミュニケーションツールであるスマートフォン等、インターネット端末に子どもが上手に関わっていくことについて意見交流することをとおして、子どもとの関わり方を見つめ直す機会にする。
- 新しいコミュニケーションツールへの関わり方について子どもと共に学ぼうとする態度を養う。

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	5 5	1 本研修会のねらいや進め方の説明を聞く。 2 アイスブレイクをする。	■本研修会のねらいや進め方について説明します。 ■アイスブレイクをします。	◆「参加・尊重・守秘」をおさえる。
展開1	5 15	3 子どものインターネット端末への関わりについて話し合う。 (1) 子どもがインターネット端末に関わる時のメリット・デメリットについて考える。 ①個人思考 ②グループ思考	■子どもがインターネット端末に関わる時のメリット・デメリットを付箋に書き出しましょう。 ■考えたことをグループで紹介しましょう。また、出た意見（付箋）はグループ化し、キーワードをつけましょう。	◆児童生徒アンケートの結果を提示して研修を進めることもできる。 ◆デメリットに対する思いを話し合ってもらい、展開2につなげる。
展開2	5 30 10 10	4 子どもがインターネット端末に上手に関わる上での意見を交流する。 (1) 考えてもらいたい「問」をグループで考える。 (2) 考えた「問」を他のグループに考えてもらおう。(代表者が模造紙を持って移動) ・[交流(8分)＋報告(2分)] ×3回 (3) 出た意見についてグループで意見交流する。 (4) ギャラリーウォークで他のグループの質問やそれに対する回答を見てまわる。	■考えてもらいたい問をグループで考えましょう。 ■考えた問を他のグループの人に考えてもらいます。グループの代表者は模造紙を持って他のグループに移動し、問を考えてもらいましょう。 ■出た意見をもとにグループで意見を交流しましょう。 ■他のグループの様子を見てまわりましょう。また「この意見はよい」と思うものがあればそこにシールを貼りましょう。	◆意見交流は「みつばちワクワクカフェ」でもよい。 ◆問の例を提示し、思考を促す。 ◆保護者自身のインターネット端末との関わりも考えてもらいたい。 ◆移動の仕方を指示し、移動の重複がないようにする。 ◆発表してもらった場合、発表者をあらかじめ決めておく方がよい。
まとめ	5	5 ファシリテーターがまとめる。 [キーワード] ・人間関係づくり ・共に学ぶ ・連携	■グループで出た意見や本時の活動といじめの防止、人権教育とのかかわりを話してまとめとする。	◆意見を1～2つ程度紹介するようにする。 ◆事前に、保護者自身のインターネット端末の上手な使い方について研修すると効果的。

## 子どもがインターネット端末と上手に関わるために

メリットは… (いいな・便利だな) デメリットは… (いやだ・不安だな)

どこにいるか分かる

電話をかけた時にかけるられる

迷惑メール

**電話・メール**

写真を勝手にとられる

**写真**

自分が写っている写真を勝手に  
ブログなどに投稿される

友だちと共通の話題ができる

知りたい情報がすぐに見つかる

**パソコン**

いろんなサイトにアクセスする

名前や通っている学校など他の人  
に知られる (個人情報)

親子の会話が増える

**ゲーム**

親子で楽しめる

使う時間を守らず親子げんかにな  
る

ゲームのやり過ぎで勉強しない

**例：「怪しいサイトにアクセスさせないため**

**保護者はどのようにすればいいでしょうか」**

**社会教育編：d**

テーマ「社会的支援」

タイトル「子どものイライラはどこに向かうの」

**【学習資料】**

**【朗読劇 しょうた君のイライラ】**

ナレーター これはある家族の朝のひとコマです。中学生のしょうた君は最近イライラしているようで、いつも不機嫌な顔をしています。

母 「しょうた、やっと起きてきたのね。早くしなさい！ 学校に遅れるわよ！」

ナレーター しょうた君は無言で食卓に座ります。

母 「また朝から不機嫌な顔して・・・おはようぐらい言えないの？」

しょうた 「(小さな声で) 自分も言ってねえし。」

母 「毎日毎日不機嫌な顔をして。何が気に入らないのか知らないけど、お母さんだって忙しいんだから、早くしてよ！」

しょうた 「うぜえ。マジ、むかつくし。」

ナレーター しょうた君はいきなり食卓を立って、無言で学校に出かけて行きました。

母 「行ってきますくらい言いなさい！ほんとにもう！」

ナレーター そこに父親が起きてきました。

父 「朝っぱらから何怒ってんだ？」

母 「あの子、最近いつも機嫌が悪くて。わたしが何を言っても返事もしないし、イライラして無愛想だし。もう、どうしてあんなふうなんだろう。」

父 「中学生なんて普通そんなもんだろ？それに毎日毎日朝からガミガミ言われたら、返事もしたくなくなるさ。」

母 「はあ？私のせいだっていうの？」

父 「そうは言ってないさ。学校でもいろいろあるだろうし、勉強だって大変だろ？しかも家に帰ってきてまで小言ばかり言われたら、不機嫌にもなるだろうって言ってるんだよ。」

母 「じゃあ、どうしたらいいのよ？あなただって考えてよ！」

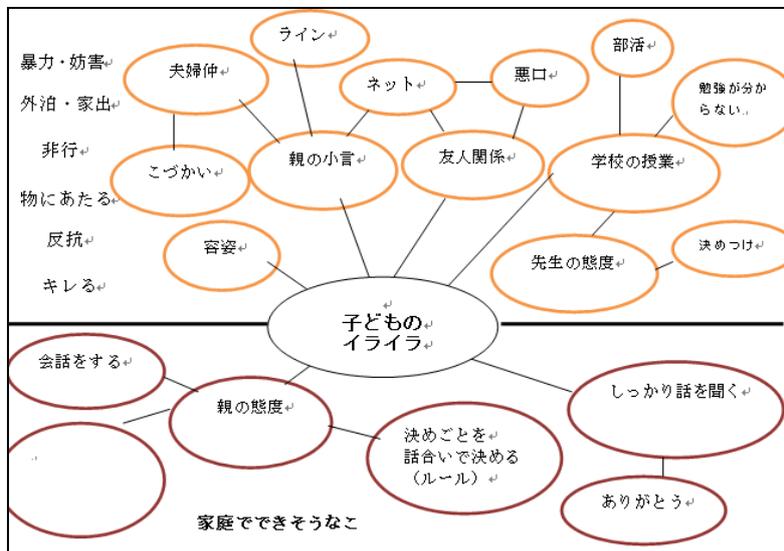
父 「う～ん。」

母 「そうだ！とりあえずは、あなたが早起きして朝ご飯を一緒に食べるところからはじめましょうよ！」

父 「どうしてそうなるの？」

ナレーター はてさて、しょうた君のイライラはどこから来ているのでしょうか？何か解決策はあるのでしょうか？皆さん一緒に考えてみてください。

**展開例**



【学習のポイント】

○いじめ加害に影響する要因のひとつである子どものストレスについて考える。

○子どものイライラを軽減することが、いじめの未然防止につながることを理解し、日常生活でできることに取り組もうとする態度を養う。

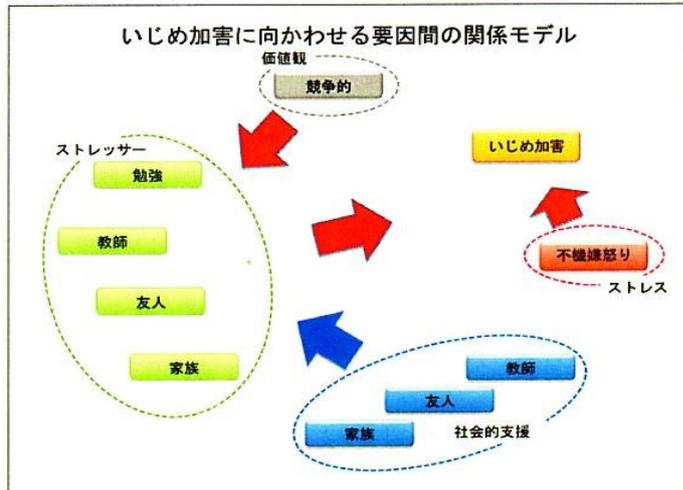
流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	2  13	1 本研修会のねらいや進め方の説明をする。 (参加・尊重・守秘)  2 朗読劇を聞いた後、感想を入れながら自己紹介をする。 (1分×人数)	■本研修会のねらいや進め方について説明する。  ■朗読劇を聞いた感想を入れながら自己紹介をしましょう。	◆事前に4人グループをつくっておく。 ◆資料1をもとにストレスについて考えることを説明する。なお、資料はまとめて配布する。 ◆代表で役割演技を行う。
展開1	10  5  10	3 子どもがイライラを感じる原因(時や事から)を書き出していく。 *模造紙上部に記入 4 イライラが引き起こす言動を書き出す。 *模造紙上部に記入 5 書き出したものをもとに、感じたことを話し合う。	■子どものイライラの原因になる事から書き出し、関連するものをつなげましょう。 ■イライラの原因から予想される言動を書き出してみましょう。 ■書き出したものを見て、日常生活で思い当たることなどを話し合ってみましょう。	◆模造紙の使い方について展開例(前ページ参照)をもとに説明する。 ◆会話をしながら思いつくものから記入するよう助言する。 ◆日常生活と結びつけて考えるよう助言する。
展開2	15	6 子どものイライラを軽減するために、保護者としてできることは何かを書き出す。 *模造紙下部に記入	■子どものイライラに対して、保護者としてできそうなことや考えたいことを書き出し、関連するものをつなげましょう。	◆ファシリテーターは、話合いの内容を把握しておく。 ◆会話をしながら思いつくものから記入するよう助言する。 ◆〇〇しないだけでなく、〇〇するという視点で考えてもらうよう助言する。
展開3	8  5	7 ギャラリーウォークをする。  8 グループで学習のふりかえりをする。	■他のグループの模造紙を見て回り、参考となる取組にシールを貼りましょう。 ■今日の学習はいかがでしたか。感想を話し合ってみましょう。	◆シールを一人3枚程度配布する。 ◆ファシリテーターは、各グループの話合いの内容を把握し、参加者全体に伝えていく。
まとめ	4  8	9 ふりかえりシートに記入する。  10 ファシリテーターがまとめる。	■ふりかえりシートに記入しましょう。 ■子どものストレスを軽減することが、いじめの未然防止につながります。	◆資料1を配付し、いじめとストレスの関わりを説明する。

■いじめに向かわせる要因は、何か？

『いじめ追跡調査 2004 - 2006 Q&A』では、相関係数を手がかりに、いじめの未然防止に有効な対策は、①ストレスの原因となるストレスを減らすこと、②ストレスがあっても行為に及ばないようにハードルを高くする(規範意識を高める)こと、の二通りが中心になるであろうことを指摘しています。その後、新しい知見は得られましたか？

誰もがいじめに巻き込まれるということは、家庭環境や個人的な資質に問題があるかどうかとは必ずしも関係なく、その時々で状況がいじめが起きていることを意味します。そこで、前回の小冊子では、加害行為と関連の深い要因として、ストレスやストレス（ストレスをもたらす要因）の存在を指摘してきました。

今回は、その議論を一歩進める形で分析を行った結果を紹介します。まず、いじめの加害経験と関連の深い（相関係数の大きい）要因を選び出し、それらの要因間に想定される影響の道筋（パス）を仮定します。今回の調査では、ストレスやストレスが いじめにつながるという先行研究を踏まえ、下の図に示したようないじめ発生メカニズムを想定した調査票が使われています（これを、いじめストレスモデルと呼んでいます）。調査によって実際に得られたデータをこのモデルにあてはめてデータ処理（共分散構造分析）を行い、要因間の関係の強さを見たのが右頁です。

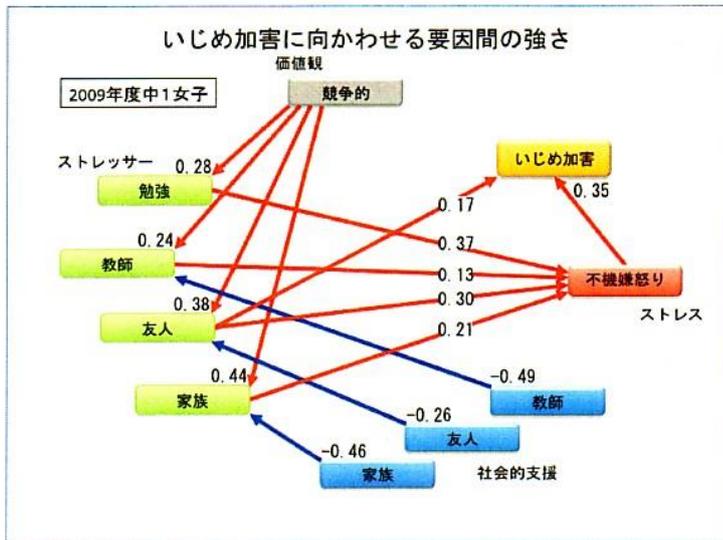


※赤色の矢印は対照となる事象を促進するように働くことを、青色の矢印は抑制するように働くことを、それぞれに示している。  
※各要因を測定する尺度（調査項目）は下の表の通り。

○尺度と調査票の質問項目

- 〈いじめ加害の尺度〉
  - ・仲間はずれにしたり、無視したり、陰で悪口を言ったりした
  - ・からかったり、悪口やおどし文句、イヤなことを言ったりした
  - ・軽くぶつかったり、遊ぶふりをして、叩いたり、蹴ったりした
- 〈ストレスの尺度〉
  - （不機嫌怒り）
    - ・いらいらする
    - ・ふきげんで、おこりっぽい
    - ・だれかに、怒りをぶつけたい
  - 〈ストレス（ストレスの原因）の尺度〉
    - （勉強）
      - ・授業中、わからない問題をあてられた
      - ・授業が、よくわからなかった
      - ・テストが返ってきて、点数が悪かった
    - （教師）
      - ・先生が、よくわけを聞いてくれずに、おこった
      - ・先生が、相手にしてくれなかった
      - ・先生が、えこひいきをした
    - （友人）
      - ・勉強のことで、友だちからからかわれたり、ばかにされたりした
      - ・顔やスタイルのことで、友だちからからかわれたり、ばかにされたりした
      - ・自分のしたことで、友だちから悪口を言われた

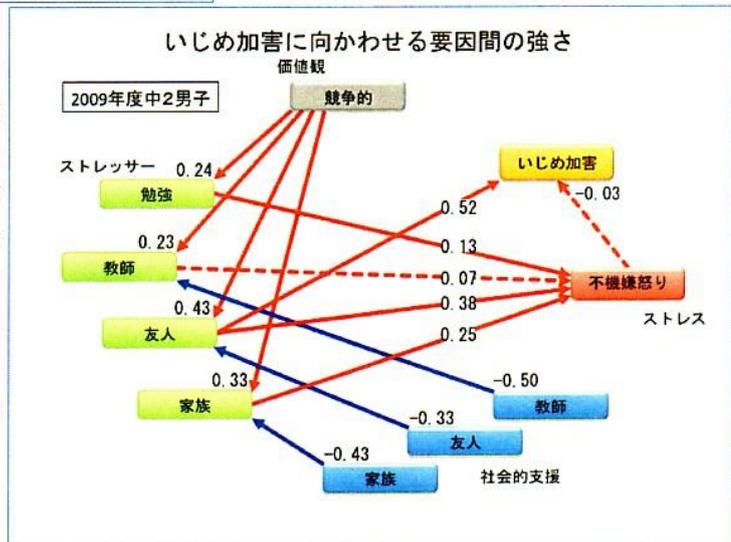
- （家族）
  - ・家の人が、成績や勉強のことをうるさく言った
  - ・家の人が、友人関係や生活面のことをうるさく言った
  - ・家の人の期待は大きすぎると感じた
- 〈社会的支援の尺度〉
  - （教師から）
    - ・もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
    - ・もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる
    - ・ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる
  - （友人から）
    - ・もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
    - ・もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる
    - ・ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる
  - （家族から）
    - ・もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
    - ・もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる
    - ・ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる
  - 〈価値観の尺度〉
    - （競争的）
      - ・これからの世の中では、勉強の成績が悪いとみじめだ
      - ・これからの世の中では、顔やスタイルがよくないとみじめだ
      - ・これからの世の中では、人よりも得意なことがないとみじめだ



たとえば、2009年度の中学1年生の場合、左の図のような結果が得られました。まず、「競争的価値観」が強いほど、「勉強ストレス」「教師ストレス」「友人ストレス」「家族ストレス」を感じやすくなり、他方で「教師からの支援」「友人からの支援」「家族からの支援」が強いほど、それぞれのストレスを感じにくくなる。そして、こうした様々なストレスが「不機嫌怒りストレス」を經由して、「いじめ加害」に結びつく。さらに、「友人ストレス」は、直接にも「いじめ加害」に向かわせる働きをする — という道筋が想定できます。

それに対して、同じ2009年度の中学校2年生

の男子の場合、やや異なる道筋が示されています(右図)。「競争的価値観」が強いほど、ストレスを感じやすくなり、他方で「教師からの支援」「友人からの支援」「家族からの支援」が強いほど感じにくくなる。そして、ストレスが強いほど、「不機嫌怒りストレス」を高める — ここまでは同じです。ただし、「教師ストレス」の「不機嫌怒りストレス」に対する影響は、必ずしも強くはない(統計学的に有意ではない)し、「不機嫌怒りストレス」も「いじめ加害」に影響を及ぼしません(共に、破線で表示)。「いじめ加害」に結びつくのは、もっぱら「友人ストレス」であり、他のストレスは無関係と考えられます。



2007～2009年度の小学校4年生～中学校3年生までの男子と女子、計36組(3年間×6学年×2種類)にどのような道筋が確認できるかを調べてみると、36組のうち、①23組は各種ストレスが「不機嫌怒りストレス」経由で間接的に、さらに「友人ストレス」は直接的にも、「いじめ加害」に影響を及ぼしており(左上の図のタイプ)、②13組は「友人ストレス」だけが「いじめ加害」に直接に影響を及ぼしている(右下の図のタイプ)、ということが分かりました。ちなみに、すべてのストレスが必ず「不機嫌怒りストレス」に影響するわけではなく、36組中25組では「教師ストレス」、12組では「勉強ストレス」、6組では「家族ストレス」、2組では「友人ストレス」(以上、重複あり)が影響を及ぼしていませんでした。つまり、「いじめ加害」に向かわせる要因はある程度まで特定されているものの、実際にどの要因が強く働くかは時々の状況によって異なり、そこに学年進行や男女差等による一貫した傾向は見られません。

ただ、「いじめ加害」に対する影響には、直接的なものだけでなく、間接的なものもあります。たとえば、「競争的価値観」は、直接には「いじめ加害」に影響を及ぼしませんが、各種ストレスを高めることで「不機嫌怒りストレス」や「いじめ加害」に間接的に影響を及ぼしていることに注意すべきです。直接的な影響(直接効果)と間接的な影響(間接効果)の合計を総効果と呼びますが、この総効果を順位で比較することで、何が影響力を持っているかを判定してみましょう。

まず、最も影響を与えていると考えられるのは「友人ストレス」です。36組中31組で第1位、5組で第2位の影響力を持っており、直接的にも間接的にも影響力が大きい要因です。次に、「競争的価値観」です。間接効果しかないにもかかわらず、36組中2組で第1位、19組で第2位、15組で第3位の影響力を示しています。そして、様々なストレスの影響を受ける位置にある「不機嫌怒りストレス」は、36組中3組で第1位、11組で第2位、14組で第3位あることが分かります。どうやら、この3つの要因がいじめの未然防止の鍵と言えそうです。

社会教育編：e

テーマ「仲間づくり」

タイトル「いじめ『あなたはどう考えますか?』」

【学習資料】

学校であった“いじめ”について、先日、保護者の話合いがありました。欠席者が多く、発言したのはいつもの一部の保護者でした。

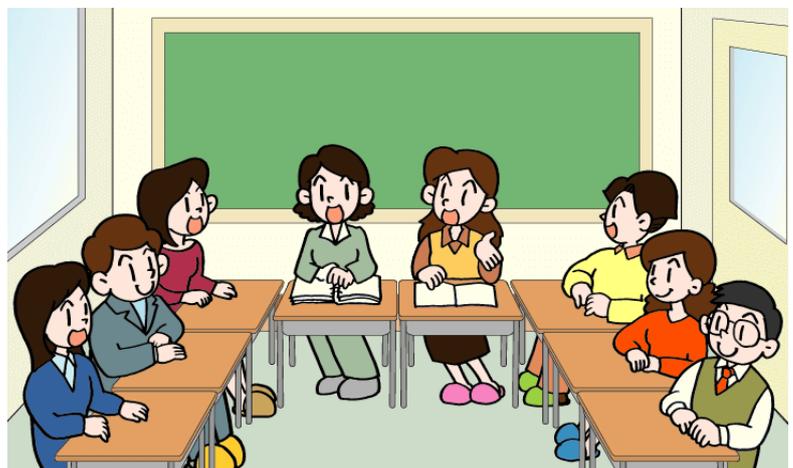
Aさん「こんなに大げさに言っているが、そもそも今回の件は“いじめ”じゃないですよね？少し、みんなで“ふざけた”だけのように思える」

Bさん「『いじめられた子が人の嫌がる事をしなければ、誰も避けたり仲間外れにしたりしないよ』と、うちの子が言っていました。でも、なんだかすっきりしません」

Cさん「何も無いのに、誰も“いじめ”はしない。いじめられた子にも、何か問題や原因があったのではないですか」

Dさん「いじめを受けた生徒の気持ちを考える事が大事だと思う」

Eさん「いじめた子といじめられた子の親同士で考えてもらったら？私たちには、関係ないし……」

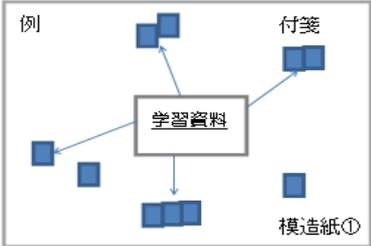
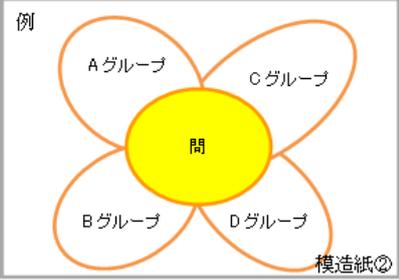


【学習のポイント】

○身近な事例を通して「いじめとは何か」を理解する。

○いじめは、どんな理由があっても許されない行為であることを確認する。

○いじめの問題が生じたときは、学校、家庭、地域が連携して対処することが重要であることを理解する。

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	5 10	1 本研修会のねらいや進め方の説明を聞く。 2 アイスブレイクをする。	■本研修会のねらいや進め方について説明します。 ■アイスブレイクをします。	◆「参加・尊重・守秘」をおさえる。
展開1	20	3 資料を使って話し合いをする。 (1)資料を読み、気になったことを付箋に書く。(個人) (2)各自が気になった部分を模造紙①の学習資料に下線を引く。次に、付箋を貼り付け、気になったことをグループで話し合う。(グループ)  (3)他のグループに意見を聞いてみたい「問」を立てる。 (4)みつばちワクワクカフェの方法や役割を確認する。	■学習資料の内容で気になったところはありませんか。 《模造紙①例》  ■他のグループに聞いてみたいことを考えましょう。 ■他のグループに出かけるみつばち役の順番を決めましょう。	◆個人用の「学習資料」を配布する。  ◆A3版「学習資料」を中央に貼った模造紙①を各グループに配布する。 ◆模造紙②を各グループに配布する。 ◆模造紙②の中央に「問」を書く。
展開2	36	4 みつばちワクワクカフェ 第1セット(6分+1分) 5 みつばちワクワクカフェ 第2セット(10分+1分) 6 みつばちワクワクカフェ 第3セット(8分+1分) 7 みつばちワクワクカフェ 第4セット(8分+1分)	■みつばちワクワクカフェ第1セットをしましょう。 ・みつばち役を交代しながら繰り返す ・意見の出具合を見ながら時間を調整する  《模造紙②例》 	◆活動の流れと成果物の例を提示する。 ◆模造紙②の花びらは、事前に書いておいてもよい。
展開3	8	8 ギャラリーウォーク ・他のグループを見てまわる。	■ギャラリーウォークをしましょう。 ■「これはいい」と思う意見に、「いいねシール」を貼りましょう。	◆シールを配布する。
まとめ	11	9 ファシリテーターがまとめる。	■最後に今日の研修のまとめをします。	◆いじめについての参考資料を配布する。

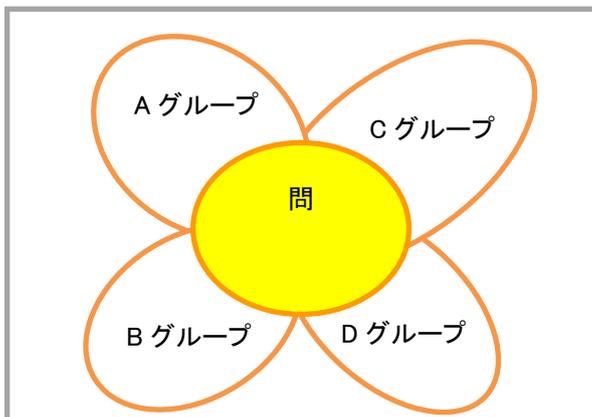
【参考資料】

## みつばちワクワクカフェ

### 《活動の流れ》

- ①みつばち役になる順番を決める。
- ②みつばち役はワークシートを持って他のグループに移動する。  
移動先のグループで問を説明し、話合いで出された意見を模造紙の中に書き込んでもらう。
- ③みつばち役は自分のグループに戻り、もらった意見を報告する。
- ④みつばち役を交代し②③を繰り返す。  
(グループ数・進行具合に応じて話合いの時間とセット数を決める)
- ⑤終了後、他グループの模造紙を見てまわり、これはいいと思う意見に「いいねシール」を貼る。

### 《模造紙例》



資料1 いじめ防止対策推進法 (H25)

(定義) 第二条

第二条 この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であつて、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

資料2 いじめの定義（児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査）（国 H25）

本調査において、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

この「いじめ」の中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが重要なものや、児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なもの含まれる。これらについては早期に警察に相談・通報の上、警察と連携した対応を取ることが必要である。

(注1) 「いじめられた児童生徒の立場に立って」とは、いじめられたとする児童生徒の気持ちを重視することである。

(注2) 「一定の人間関係のある者」とは、学校の内外を問わず、例えば、同じ学校・学級や部活動の者、当該児童生徒が関わっている仲間や集団（グループ）など、当該児童生徒と何らかの人間関係のある者を指す。

(注3) 「攻撃」とは、「仲間はずれ」や「集団による無視」など直接的にかかわるものではないが、心理的な圧迫などで相手に苦痛を与えるものも含む。

(注4) 「物理的な攻撃」とは、身体的な攻撃のほか、金品をたかられたり、隠されたりすることなどを意味する。

(注5) けんか等を除く。ただし、外見的にはけんかのように見えることでも、よく状況を確認すること。

資料3 人権侵犯事件の種類別構成比の比較（国 H29）

